

令和2年 9月18日

白老町議会
議長 松 田 謙 吾 様

産業厚生常任委員会
委員長 広 地 紀 彰

所管事務調査の結果報告について

本委員会は、所管事務調査を終了したので、その結果を次のとおり報告します。

記

- 1 調査事項 (1) 商業観光計画の進捗状況と今後について
(2) 分科会 (アヨロ鼻灯台周辺保存会との懇談)
(3) 出前トーク (白老観光商業協同組合との懇談)
- 2 調査の方法 (1) 事務調査
- 3 調査日程 (1) 令和2年04月17日(金) 事務調査
(2) 令和2年07月28日(火) 分科会
(3) 令和2年08月20日(木) 出前トーク・
事務調査
- 4 出席委員
委員長 広 地 紀 彰 副委員長 森 哲 也
委員 及 川 保 委 員 西 田 祐 子
委員 久 保 一 美 委 員 長谷川 かおり
委員 貳 又 聖 規
- 5 説明のために出席した者の職・氏名
経済振興課長 富 川 英 孝 経済振興課参事 白 杵 誠
経済振興課主幹 太 田 誠 経済振興課主幹 鶴 澤 友 寿
経済振興課主査 八木橋 直 紀
- 6 職務のために出席した者の職・氏名
主 査 小野寺 修 男 書 記 村 上 さやか

7 調査結果

本委員会は、担当課から商業観光計画の進捗状況と今後についての所管事務調査を終了したので、その内容を次のとおり報告する。

(1) 産業厚生常任委員会

【白老町商業・観光振興計画の進捗状況について】

本計画は、2020年の民族共生象徴空間(ウポポイ)の開設を契機として、本町が持つ豊かな自然、食、温泉、文化等の地域資源を最大限に活用し、「感動」と「おもてなし」を提供し、「一度は行ってみたいまち」から「何度でも訪れたいまち」へ、来訪者にとって魅力ある「個性あふれる感動とおもてなしのまちづくり」を推進し、地域経済の活性化と町の発展を目指すこととしていた。計画の期間は平成28年から平成31年までの4年間であった。計画の検証と現状については次のとおりである。

①基本方針は観光資源のネットワーク化、観光資源の魅力づくり、集客・誘客活動の強化、魅力的な地場産品等の造成、まちの顔となる市街地の形成、推進体制の確立としている。推進は白老観光協会が担っている。

②重点事業プロジェクトとしての位置づけでは、計画期間内においては、白老顔づくりプロジェクト、宿泊機能強化プロジェクト、広域観光交通・誘導強化プロジェクト、集客交流拠点整備プロジェクトについては事業内容実施済みとなっている。また、象徴空間関連交通ネットワーク強化プロジェクトの中の駅や象徴空間からポロトの森、仙台陣屋跡、商店街などのネットワーク化については着手している。一方、誘客促進強化プロジェクトでの視察・研修等の積極的な受入れ、特産品開発・販路拡大プロジェクトでのしらおいブランド認定制度の構築、地域活性化推進体制及び人材育成プロジェクトでの専門的な知識、技術等を有する人材の確保や事業計画運営、商品開発、販路拡大、ホスピタリティ、観光・イベント等のコーディネーターの育成が未実施であった。

③目標値の達成状況は、新規起業件数、新規宿泊施設の開業及び遊休宿泊施設の再開は目標値に達している。しかし、観光入込客数、外国人来訪者及び教育旅行者について、アイヌ民族博物館の閉館による影響で目標値に届いていない。そのほか就業者数やまちづくり会社による雇用の創出については、目標値との乖離がある。現在は観光協会が地域DMOの候補法人の登録をし、雇用の創出に動き始めている。

【検証から見える今後の課題】

- ①インクラの滝へのアクセス道の整備、アヨロ鼻灯台周辺整備化、公共施設等のバリアフリー化などの観光資源のインフラ整備を行うこと。
- ②経営的視点や地域経済分析可能な人材の確保などのため、白老観光協会の自主的運営を図るべくDMO本登録を目指すこと。
- ③地域から受注し、経済的な恩恵が町内に回る仕組みの中での商品開発に取り組むこと。

【商業観光政策の今後について】

次期計画策定の考え方としては、前計画を踏襲しつつも4年間に生じた時代の変化を反映し、総合計画で掲げるウポポイ等を生かした観光振興と交流人口の拡大の実現を目指すこととしている。計画策定に留意すべき視点としては次のとおりである。

- ①新型コロナウイルス感染症予防と観光振興のバランスに配慮した事業が実施されること。
- ②アイヌ文化復興のナショナルセンターと連携を図ることにより地域活性化の結果を出すこと。
- ③一般社団法人白老観光協会は経営的視点を持った戦略を立て、自活できる取組を強化すること。
- ④魅力ある店舗などを観光コンテンツとして取り入れ、経済波及効果を生み出すこと。
- ⑤着地型コンテンツの充実等により、滞在型観光の割合を増やしていくこと。
- ⑥町内にある歴史的資源、食資源、自然資源などの有機的な連携を行い、地域内における相乗効果を高める取組を行うこと。

以上のことを考慮しながら、白老町観光振興計画を本年度末までに策定するとしている。

【委員会意見】

町の商業観光政策においては町が実態を捉えながら主体となり、町民と一体となった観光施策を図ることが重要である。

1点目は人材の充実の必要性である。観光に係る人材育成とその確保が重要であり、観光ガイドやDMOの活用を進めるべきである。また、地域おこし協力隊や進出企業などの幅広い意見を取り入れつつ、訴求力を持ち、広い意見を積極的に取り入れられる組織づくりが重要と考える。また、付加価値を持った新商品開発や、白老ブランドの確立のための専門的知識を持つ職員の活躍が期待される。

2点目は地元にある既存の観光資源を生かして事業者がウポポイと共に歩んで

いく施策の重要性である。また、仙台藩白老元陣屋やインクラの滝などの周辺観光地、アヨロ鼻灯台や海産物ロードなど竹浦虎杖浜地域への導線確保と、観光スポットのブラッシュアップを図るべきである。さらに白老駅鉄北地区と鉄南地区との連携や導線づくりを図るべきである。

3点目に、受入体制の拡充である。点字ブロックなど利用者の立場に配慮した対応が必要である。新型コロナウイルス感染症拡大防止への支援や、鉄南地区の駐車場確保など、受入体制の充実が必要である。

本計画策定に当たっては、新規進出を図る観光事業者などから新たな知見を取り入れながら、観光を地域経済や町内消費へと展開できる視点が必要である。商業・観光振興計画はウポポイが開設されたわがまちにとって、まちを動かしていく原動力になるという使命感の下、町職員の主体性、企画力が発揮された計画となることを求める。

(2) 産業厚生分科会

産業厚生分科会は、アヨロ鼻灯台周辺保存会との懇談を実施した。また、白老観光商業協同組合から出前トークの要請があり、同組合との懇談を行った。それらの内容については、別紙活動報告書のとおりである。

産業厚生分科会の活動報告書

令和2年 8月20日

産業厚生常任委員会
委員長 広地 紀彰 様

産業厚生分科会
主査 森 哲也

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名：アヨロ鼻灯台周辺保存会（参加者6名）

日程・会場	令和2年7月28日、虎杖浜公民館 午後1時30分～午後2時50分
懇談テーマ	アヨロ鼻灯台周辺保存会の活動状況と課題について
出席委員名	主査 森 哲也 副主査 広地 紀彰 委員 及川 保 委員 西田 祐子 委員 久保 一美 委員 長谷川 かおり 委員 貳又 聖規
意見・要望事項	下記のとおり
活動報告 (処理・対応含)	●活動状況（経過） ・アヨロ鼻灯台周辺保存会は、アイヌの文化や歴史、物語を知り、宮森太惣八氏開墾の歴史を理解し、アヨロ灯台周辺を観光資源として保存活用・整備することを目的として、令和元年7月2日に設立された。 昨年度の主な取組は次のとおりである ・令和元年7月27日、ロシア発祥のごみ拾いプロジェクトであるクリーンゲームス（可燃・不燃など、ごみを細かく分別し、回収したごみでポイントを競うゲーム）を実施 ・令和元年9月24日、ポンアヨロ開墾の歴史を理解するため、宮森太惣八氏子孫の宮森康一氏宅訪問 ・令和元年9月28日、第1回 地域懇談会 ・令和元年11月11日、虎杖浜竹浦観光連合会へ要望書提出（資金不足でアヨロ鼻灯台周辺の保護・保存に対し、思うような対策を実行できない。また、転倒・落下の危険な場所が

あり、早急な対策が必要のため)

・現在アヨロ鼻灯台への散策路を新たに2ルート整備中

※今回の懇談後に状況を把握するため、アヨロ鼻灯台及び周辺を現地視察した。

●意見・要望

・アヨロ鼻灯台に向かう虎杖浜海岸通りは、ごみのポイ捨てが多く、清掃活動をして、すぐにごみが捨てられている。ごみのポイ捨て防止対策を望む。

・アヨロ鼻灯台周辺の景観は素晴らしい、文化遺産を目指し、全国に発信していく取組を望む。

・アヨロ鼻灯台は町の観光資源であるので、環境整備を行うため草刈り燃料の補助を望む。

・自然景観を観光資源として生かすまちづくり推進を望む。

●まとめ

アヨロ鼻灯台は1976年から2016年の40年間もの長い間、船舶が効率的に航行するためのサポートを行い、白老の海上の安全を守り続けてきた。役割を終えた現在においても、美しい風景の一部としての文化的価値もある。また、アヨロ海岸周辺には、アイヌ文化の歴史が多く発掘され、文化的にも希少な価値を持つ場所である。

景観と文化的な価値が融合する場所であり、文化遺産を目指す等の取組がより価値を高め、町内の魅力発信につながると考えられる有意義な懇談であった。

産業厚生分科会（出前トーク）報告書

令和2年 9月 4日

産業厚生常任委員会
委員長 広地 紀彰 様

産業厚生分科会
主 査 森 哲也

本分科会は、委員会の広聴活動として下記団体との意見交換を終了したので、以下のとおり報告いたします。

団体名：白老観光商業協同組合（参加者5名）

日程・会場	令和2年8月20日、株式会社協業民芸 午前11時00分～午後0時00分
懇談テーマ	白老駅北観光商業ゾーンの早期整備について
出席委員名	主 査 森 哲也 副主査 広地 紀彰 委 員 及川 保 委 員 西田 祐子 委 員 久保 一美 委 員 長谷川 かおり 委 員 貳又 聖規
意見・要望事項	下記のとおり
活 動 報 告 (処理・対応含)	<p>●活動状況(経過)</p> <ul style="list-style-type: none">・昭和40年5月にポロト湖畔にコタンを移設し、白老町観光の重要な文化拠点として営業が始まった。・昭和48年4月に白老観光商業協同組合を設立。初代理事長 壬生竜之介 組合員52名・昭和50年に民芸会館ミントラ開館。・平成21年に民芸会館ミントラ閉館し、アイヌ民族博物館の隣接地にて仮設店舗にて経営する。・平成29年にアイヌ民族博物館の閉館に伴い、仮設店舗の営業を閉じる。・令和2年現在、2組合員（1社、1個人事業所）、観光民芸品販売、体験学習、民芸品の商品化等の事業を行う。 <p>●意見・要望</p> <p>①白老の独自の土産品販売施設の開設について、組合も含めた町内で民芸品を扱っている事業者や個人が土産品を扱える施設</p>

- の開設を要望する。
- ② 駅北地区民間活力ゾーンについて、北海道の事業の完了後は仮施設を白老町が譲り受け、町内の事業者が参画しやすい環境を整備し、土産物等を販売できる拠点にすることを要望する。
- ③ 木彫り熊ミュージアムの設置、または開設のための支援について、木彫り熊を通じて、まちの歴史や生活、軒を連ねた民芸品の風景、彫り職人の生きざま等を感じる事が可能な教育文化機能を持った展示施設の設置を要望する。
- ④ 新たな施設の開設が難しい場合は、コロポックル所有の体験施設を改修し、多くの来訪者（教育旅行など）に民芸品文化を発信する。そのための改修や設備整備のための費用を交付金等（地方創生推進交付金、アイヌ政策推進交付金など）での支援を要望する。
- ⑤ 登別市との連携による教育旅行のプロモーションについて、登別市の宿泊施設との連携の下、町が先頭に立ち、教育旅行のトップセールスを行うことを要望する。
- ⑥ 白老町での体験学習を促す支援メニューの構築について、教育旅行を誘致する学校においては、国のゴートゥーキャンペーンに倣い、生徒1人当たり3,000円補助する支援策を要望する。
- ⑦ 駅北観光インフォメーションセンターのポロトミンタラ交流広場の体験施設の機能充実について、同広場にて防寒対策が可能な施設の整備、体験機材の物置設置などの機能充実を要望する。

●まとめ

白老観光商業協同組合は、木彫り熊など民芸品を扱う民芸会館を開設し、白老町の観光振興の核として多くの観光客でにぎわい、白老町のアイヌ文化の発信拠点として地域に貢献してきた。

しかし、平成21年の民芸会館の閉館や、平成29年のアイヌ民族博物館の閉館に伴い、店舗や売り場がなくなり、組合員数も減少してきた。

アイヌ文化復興の拠点であるウポポイが整備されたことに伴い、再び白老町の観光産業を支える民芸品文化の継承と担い手の育成が必要であると感じた懇談であった。